

CTとMRIの違いって？

《目的に応じた使い分け》

皆さんが、腹痛で病院に行き医師の診察を受けたとします。その際、医師が症状や身体診察だけで診断をつけられないと判断した時、画像検査をすることになります。

腹痛の原因精査にはCTが用いられることが多いです。CTは、お腹のどこかに異常はないかなど、大まかに病気を見つけることに適した検査です。CTの結果、例えばお腹の中に腫瘍が見つかったとします。この腫瘍がCTでは良悪性の判別がはっきりしない、あるいは腫瘍と周囲の臓器との位置関係を詳しく調べたいとなった場合、MRIの出番です。MRIは病気と周囲の臓器との位置関係や、病気自体の詳細(良悪性の判別)を調べることに適した検査です。ただし、病気によってはCTの方が適していることもあり、上記の限りではありません。



	CT	MRI
大きな違い	短時間で広い範囲を撮影でき、病気を見つけ出すことができます。しかし、放射線を使用します。	病気の存在する範囲や内部の性質を詳細に画像化することができます。しかし、狭い空間に20分から40分入り、安静にしていなければなりません。

※両者とも造影剤という薬を使用することでより詳細な画像を撮ることができます

《最後に》

現代医療において画像検査から得られる情報はとても多いです。適切なタイミングで適切な検査を選択することで、病気の早期発見、早期治療につながります。

市立甲府病院放射線診断科 渡邊裕陽わたなべ ゆうやうドクター



- ・平成26年山梨大学医学部卒。山梨県立中央病院、山梨大学附属病院を経て、平成28年4月より当院勤務
- ・現在当院放射線診断科医師

市立甲府病院…☎(244)1111

《CTとMRI》

	CT	MRI
特徴	放射線を用いて画像を撮る装置	大きな磁石を利用して画像を撮る装置

～8月は食品衛生月間～

食中毒に気をつけましょう！

市生活衛生薬務課…☎(237)2550

気温も湿度も高くなる夏は、食中毒が発生しやすくなります。食中毒というと、飲食店などが原因と思われるがちですが、皆さんの家庭でも、正しく食品を扱わないと食中毒が発生します。

食中毒を予防するために、3原則を徹底しよう！

①付けない

食品に細菌を付けないように、調理や食事をする前には、必ず手を洗いましょう。また、肉や魚と生野菜は、包丁、まな板を使い分けましょう。



②増やさない

購入した肉や魚、お惣菜などは、細菌が増えないよう、なるべく早く冷蔵庫に入れましょう。



③やっつける

食品は中心までよく加熱しましょう。また、ふきんや調理器具は、洗剤でよく洗い、熱湯などで消毒しましょう。

